

# ナガイモ・大和芋

**使用産地：**北海道、青森県、長野県、静岡県など

## 使用目的：

ナガイモは地中深くまで成長し、長さが1mまで達するものもあり、地中に耕盤や石などの障害物があると、イモの伸長が停滞したり曲がって生長したりするため、栽培には耕土が深く水はけの良い柔らかい畑であることが必要です。また、ナガイモ（大和芋）はウィルスや病害に弱いため、畑の土づくりには物理性のほか生物性も重要となります。深さ1mほどの作土層を必要とするため、微生物の多様性も土壌の表層から深層部まで求められます。未熟な有機物は土壌病原菌の栄養源になり、イモ肌の品質を落とす原因にもなるため、投入した有機物を深層部でも十分に分解・腐植化出来る微生物相が必要です。

## （ナガイモ）

### 土壌消毒を行わない場合

散布時期：① 収穫終了後、掘り溝の埋め戻し時に混和 ② 元肥施用

使用数量：コフナ1号もしくはコフナMPSS 7～10袋以上／10a

使用方法：堆肥や元肥とともに耕起

効果：定期的に行なうことで深くやわらかい土になっていきます。

### 土壌消毒を行う場合

散布時期：クロルピクリンなどの植え溝注入前（トレンチャーなどでの植え溝耕起前）

使用数量：コフナ1号もしくはコフナMPSS 7～10袋以上／10a

使用方法：堆肥や元肥とともに耕起

備考：通常の土壌消毒方法と違い、ナガイモはトレンチャー耕起後に土壌消毒剤を行ないますので、土壌消毒により土壌微生物が死滅する可能性があります。

この方法のコフナ施用は土壌改良プラス団粒構造破壊予防の目的があります。

クロルピクリンのような土壌消毒剤は土壌の団粒構造も破壊するため、

消毒後のコフナ施用が難しい場合は、事前にコフナと有機物を投入して下さい。

## （大和芋）

### 次年度の準備に向けて クリーニング

散布時期：収穫後の秋から冬の間

使用数量：コフナ1号もしくはコフナMPSS 7～10袋以上／10a

使用方法：収穫残渣や堆肥・緑肥すき込み時

### 土壌消毒を行う場合 菌体補給や発根促進

散布時期：春先のバスアミドや石灰窒素等による土壌消毒後

使用数量：コフナ1号もしくはコフナMPSS 7～10袋以上／10a

北海道

北海道帯広市大正地区の輪作コフナ使用事例

年数	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	6年目	7年目	8年目
作物	秋小麦	長いも	長いも	長いも	てん菜	馬鈴薯	秋小麦	秋小麦
栽培期間	(9~8月)	(5~11月)	(5~11月)	(5~11月)	(5~11月)	(5~10月)	(9~8月)	(9~8月)
コフナ施用時期	後作緑肥すき込み	作付前に全層施肥	作付前に全層施肥	作付前に全層施肥	収穫後に残渣すき込み	作付前に全層施肥		後作緑肥すき込み
コフナ施用量	45kg/10a	45kg/10a	45kg/10a	45kg/10a	45kg/10a	45kg/10a		45kg/10a

長いも、馬鈴薯の前作(緑肥、てん菜)残渣のすき込み分解促進 秋コフナMP 45kg/10a  
長いも、馬鈴薯の作付前に全層施肥し土壌微生物の多様化・活性化 春コフナMP 45kg/10a



北海道帯広市大正の長いも

青森県

生産者の話

ナガイモの品種は在来種を使用しております。殺虫剤(アブラムシ対策)や除草剤は使用しておりますが殺菌剤や土壌消毒は行なっていません。

コフナMPSSを年間10袋/10a、モミガラ堆肥3t/10aとともに投入しています。コフナは使い始めたきっかけは畑の土壌病害が出てきたからです。コフナを使い始めてナガイモの腐る病気はとまってはいませんが徐々に無くなってきているようです。

## 大和芋



収穫後、残さ分解を兼ねてコフナ散布

## 大和芋

コフナ区

慣行区



慣行区と比べて肌がきれいで、形状も良い

(長さ~20cm、重さ~180gほどが理想とのこと)